

であう。つながる。ひろがる。



同志社大学ボランティア支援室

活動報告書

2016



同志社大学 学生支援センター

ボランティア支援室

Support Office for Student Volunteer Activities



ボランティア支援室長
上田 雅弘

1. はじめに

本学は創立以来、建学の精神である「良心教育」において、知育とともに、キリスト教に基づく徳育を重視しています。その徳育の一環として、学生によるボランティア活動を積極的に支援し、学生の自主性、社会性および奉仕の精神を育むとともに、市民社会の一員としての自覚を促すことを目的として、2016年4月にボランティア支援室を開設しました。

ボランティア支援室は、ボランティア情報の収集や学生への情報提供をはじめとして、ボランティア活動への学生の参加促進、学生のボランティア活動に関する助言、ボランティアセミナーや講習会の開催等を行っています。また、学内外のボランティア団体等との連携・協力によりネットワークを構築し、学生のボランティア活動の場を広げるとともに、地域社会と大学をボランティアの心でつなぐことを目指しています。

2. 学生の思いを受け止める組織

ボランティア支援室は、学生の「ボランティア活動をしたい」という強い気持ちに寄り添い、その思いを受け止めて、社会と関わる一歩を踏み出す応援をするために発足しました。ボランティア活動を軸とした学生生活の過ごし方を一つの選択肢として提示することは、学生の可能性や成長を支援するという面において、非常に重要なことだと考えています。実際、開設直後の4月に発生した熊本地震災害の際には、多数の学生がボランティア支援室に押し寄せました。その思いを受け、GW期間、夏期休暇には現地災害ボランティアセンター運営活動等の場を提供することができました。また、これと並行して募金活動も試みましたが、これには一般学生とボランティアサークル等に所属する学生が協力し、本学のキリスト教文化センターとも連携して、チャペルアワーでの募金活動も行うなど、様々なボランティアの思いを一つの活動として集約することができました。このように、本学学生の潜在的なボランティアニーズを受け止める組織ができたことは非常に意義深いことだと感じています。

3. 本学のボランティア支援室の特長

本学の学生支援センターでは、2008年度から3年間実施された文部科学省の学生支援GP「地域コミュニティによる学生支援方策～京町家を拠点とした異世代協同プロジェクト」をはじめ、学生が地域社会の中でさまざまな立場や世代を越えて地域の方々とふれあい、多様な価値観と出会うことによる成長に焦点をあてたさまざまな正課外プログラムを実施してきました。こうした従来からの取り組みを活かし、ボランティア支援室は、今出川キャンパスが立地する京都市上京区を中心とした地域連携におけるボランティア活動の活発化を目指すことを一つの柱としています。具体的には、上京区役所、上京区社会福祉協議会の全面バックアップを得ながら、「同志社つながる@カフェ」を基幹事業として開催し、地域と学生の出会いの場を創出しています。

さらに、学生の自主性を尊重する学生主体の支援室を目指して、支援室では「地域と共に」をスローガンに、本学学生のボランティア活動の活性化を目的として、ボランティア情報の発信・紹介や、ボランティアイベントの企画・運営などを行う学生スタッフ「ARCO」を置いています。また、本学に所属するボランティア団体のさらなる活性化を目的とした学内ボランティア団体横断型ネットワークとして、同志社ボランティアネットワーク（通称V-NET）を今出川と京田辺の両校地に設置し、ボランティア支援室が主催する情報交換会で、日頃の活動や組織運営について意見交換を行うとともに、連携プログラム等を行っています。

4. おわりに

開設以来、ボランティア支援室には学外のボランティア団体様から多くの情報が寄せられ、1年間で132もの団体様に登録をいただきました。今後もボランティア支援室が、学生と地域の方々をつなぐ拠点として発展していくことを願うとともに、皆様のご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

目次

1. ボランティア支援室長 挨拶	1
2. ボランティア支援室について	
支援室の理念・目的／活動内容／加盟ネットワーク／来訪者状況／教職員名簿	3
ボランティア支援室主催事業 2016 年度	4
3. ボランティア支援室実施・参加事業	
■災害・防災・復興支援	
熊本地震災害ボランティア現地活動	5
熊本地震災害義援金募金／未来に繋げよう！！ V-NET 合同防災企画 ～熊本地震から3か月経った今～ ..	6
同志社 EVE 熊本復興支援物産展／災害ボランティアセンター基礎講座／防災企画	7
■地域連携	
ほほえみ広場 2016 / 上京区民ふれあいまつり	8
同志社つながる@カフェ	9
■子ども	
四季体感イベント～オリジナル風鈴づくりで夏を感じよう！！～／ボランティア入門講座～子どもとの接し方～ ..	10
寒梅館夏まつり／一日体験ボランティア「小学校で Egg と一緒に子どもたちと遊ぼう！」／	
Egg と巨大迷路で遊ぼう！	11
■環境	
祇園祭ごみゼロ大作戦！／和束のお茶を守ろう！茶畑ボランティア	12
■国際	
国際ボランティアってどんなの？～有意義な夏休みのために～／	
JICA ボランティアセミナー～青年海外協力隊で海外へいこう！～／	
経験者に聞こう！国際ボランティアってどんなの？	13
■ボランティア支援室開設記念シンポジウム	14
■講演会、講習、セミナーなど	
V-NET ボランティア説明会／ボランティアウィーク	15
ボランティア入門講座～災害ボランティア編・ボランティア支援室見学ツアー～／	
第10回大学ボランティアセンター全国フォーラム 2016 / スキルアップ講座	16
4. 学生組織	
■ボランティア支援室学生スタッフ ARCO	
代表挨拶／合宿／勉強会	17
大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー 2016 / 2016 年度活動実績	18
■ V-NET	
(今出川) 国際居住研究会 / STUDY FOR TWO / 学生団体 CHAD	19
ASUVID 今出川 / 同志社 FAST / See-Saw	20
(京田辺) スポーツボランティア団体 Egg / Global Baton for Ishinomaki / そら	21
同志社生涯スポーツ研究会～ DUAL Sport ～ / PAZ MUSICA / ASUVID 京田辺 /	
同志社猫サークル Do-Cat	22

ボランティア支援室について

同志社大学は創立以来、建学の精神である「良心教育」において、知育とともに、キリスト教にもとづく徳育を重視してきました。その徳育の重要な一環として、学生によるボランティア活動を積極的に支援することにより、学生の自主性、社会性および奉仕の精神を育むとともに、市民社会の一員としての自覚を促すことを目的として、2016年4月にボランティア支援室を開設しました。

ボランティア支援室は、学生の成長への支援と同時に、その活動を通じて、大学が地域社会の一員としての責任に応えていくことを念頭に活動します。

主な活動内容

- ボランティア情報の収集及び学生への情報提供
- ボランティア活動への学生の参加促進
- ボランティア活動に参加する学生への助言と支援
- ボランティアセミナー、講習会等の実施
- 学内外のボランティア団体等との連携・協力

現在加盟しているネットワーク等

① 関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会

大学ボランティアセンターのあり方を検討し、大学ボランティアコーディネーターの専門性向上とセンターの存在価値を高め、認知度向上をめざす連絡会。年間4回程度の会議を行っている。加盟団体数は13団体。

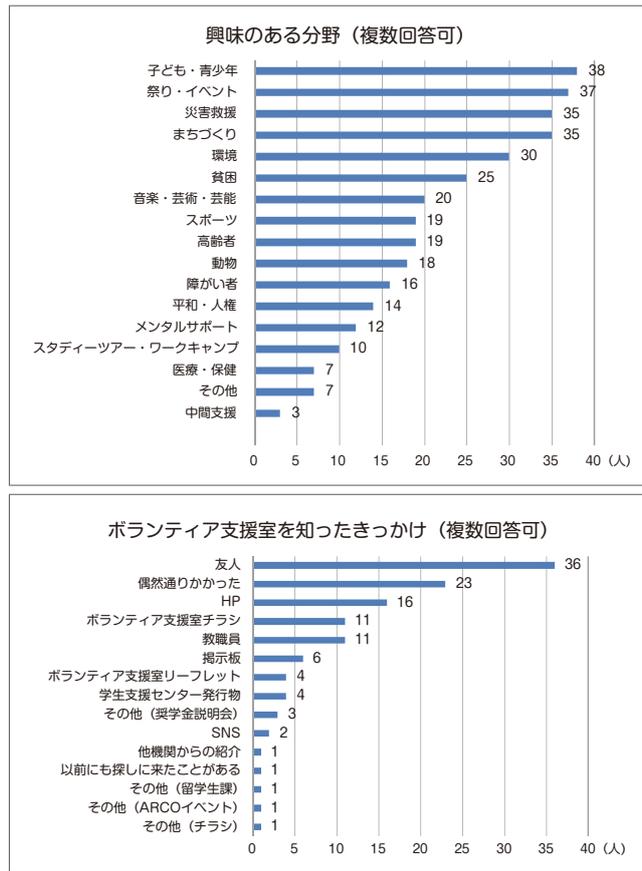
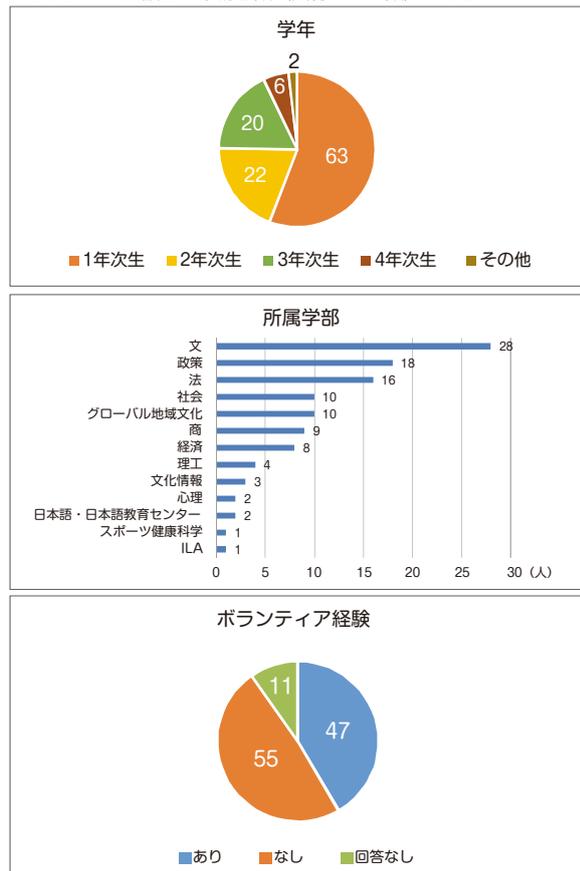
② 大学間連携災害ボランティアネットワーク

東日本大震災を機に大学間で効果的で有意義な取り組みができるのか考える組織として結成。学生同士のネットワークも築き上げて、学生ならではの知恵と企画力を発揮する場も構築。現在は大学間連携による学生ボランティア活動を柱として、日本全国の109校とネットワークを構築。

③ 大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ

京都市内で災害が発生した際、大学生が災害ボランティアセンターの設置・運営、また、京都市外で災害が発生した際は、災害ボランティア活動などのリーダーとしての役割を協働で行なっていき「大学のまち京都」としての特性を生かした取組を行っていくもの。現在京都市内5大学と京都市社会福祉協議会で構成。

ボランティア支援室 来訪者数（受付シート数）113名



ボランティア支援委員会委員（2017年3月現在）

氏名	役職
上田 雅弘	ボランティア支援室長（委員長）
横井 和彦	キリスト教文化センター所長
関谷 直人	神学部 教授（学識経験者）
永田 祐	社会学部 准教授（学識経験者）
柳井 望	学生支援機構事務部長
太田 博之	今出川校地学生支援課長
矢田 直人	京田辺校地学生支援課長

ボランティア支援室（2017年3月現在）

氏名	所属
細川 謙	今出川校地学生支援課 係長
大澤うらら	京田辺校地学生支援課 係長
山田 優奈	今出川校地学生支援課
種市 麻理	京田辺校地学生支援課
澤村 隆太	今出川校地ボランティアコーディネーター
齊藤 由華	京田辺校地ボランティアコーディネーター

月	日	タイトル・内容	参加者数	場所
4	16	第1回同志社つながる@カフェ 「京都を120%楽しむ！上京てくて区探索ツアー」	25	今出川校地 (志高館ラウンジ)
4	22	熊本義援金募金活動（～5月31日）	565	両校地
4	25	V-NET ボランティア説明会	26	今出川校地 (ラーニング・commons)
4	30	熊本地震現地支援活動（～5月8日）	8	熊本県熊本市
5	20	第2回同志社つながる@カフェ 「京都の魅力×地元の自慢」	5	今出川校地（寒梅館 和室）
5	25	国際ボランティアってどんなの？ ～有意義な夏休みのために～	14	今出川校地（良心館 407）
6	1	JICA ボランティアセミナー ～青年海外協力隊で海外へいこう！～	23	今出川校地（良心館 102）
6	2	JICA ボランティアセミナー ～青年海外協力隊で海外へいこう！～	12	京田辺校地 (ローム記念館内劇場空間)
6	9	第3回同志社つながる@カフェ 「祇園祭」	4	今出川校地 (ラーニング・commons)
6	21～23	ボランティアウィーク 広がれ！ボランティアの輪	4	京田辺校地（多目的ホール）
7	2	ボランティア支援室開設記念シンポジウム	104	今出川校地（良心館地下2）
7	4	ボランティア入門講座～子どもの接し方～	8	今出川校地（良心館 419）
7	5	未来に繋げよう！！V-NET 合同防災企画 ～熊本地震から3か月経った今～	17	今出川校地（良心館 409）
7	6	第4回同志社つながる@カフェ 「季節のイベント・行事」	3	今出川校地（良心館 410）
7	7	ボランティア入門講座～初めてのボランティア～	6	今出川校地 (ボランティア資料室)
7	8	ボランティア入門講座 ～災害ボランティア編・ボランティア支援室見学ツアー～	8	今出川校地 (ボランティア資料室)
7	15・16	祇園祭ごみゼロ大作戦！（ボランティア体験）	44	京都市内（鉾町一帯）
8	21～24	熊本現地支援活動	8	熊本県熊本市・御船町
9	8・9	大学ボランティアセンター全国フォーラム (共催：特定非営利活動法人ユースビジョン)	36	今出川校地 (寒梅館・良心館)
10	22	経験者に聞こう！国際ボランティアってどんなの？	40	今出川校地 (良心館 104)
10	26	第5回同志社つながる@カフェ 「復興支援～今、京都で出来る支援とは～」	9	今出川校地 (寒梅館 2C 会議室)
11	16	小学校で Egg と一緒に子どもたちと遊ぼう！！	11	京田辺市立新新小学校
11	26～28	同志社 EVE 熊本復興支援物産展・パネル展示	47	今出川校地（良心館 101）
12	14	第6回同志社つながる@カフェ 「京都の児童館を知ろう！」	3	今出川校地（良心館 407）
2	10	防災企画	7	京都市市民防災センター
3	15・16	和東のお茶を守ろう！茶畑ボランティア	9	京都府相楽郡和東町
3	18	Egg と巨大迷路で遊ぼう！	小学生 18	京田辺校地（多目的ホール）
3	29	スキルアップ講座	15	今出川校地（至誠館 1）

レポート ①

熊本地震災害ボランティア現地活動【4～5月活動報告】

4月30日（土）～5月8日（日）、熊本市災害ボランティアセンターにおいて本学学生・教職員10名（学生8名、職員2名）が活動しました。

ボランティアセンターが設置された熊本市は、地震で大きな被害を受けた地域で、被災された個人宅等の片付けや避難所での炊き出し、清掃などの活動をするボランティアの力を必要としており、ゴールデンウィーク期間中は全国から多くのボランティアが駆けつけました。運営スタッフとして活動した学生たちは、ボランティアの受付・誘導、活動先のマッチング、資材の整理、現地ニーズの受付といった活動を通して、ボランティアセンターの運営が円滑に進むように業務をサポートしました。

現地での滞在中は、熊本保健科学大学学内施設を宿泊場所として提供いただきました。ボランティアとして現地入りした県内外の大学生との出会い、交流もありました。最終日には、熊本保健科学大学のみなさんから素敵な色紙をいただきました。



【学生レポート】

社会学部メディア学科2年次生 辰巳 雄一郎

私は熊本災害救援活動で現地を訪れ、ボランティアセンターの運営補助の一環として、資材班に所属しました。そこではボランティアに来ていただいた方々に必要な道具を貸し出していました。初めはハードな肉体労働だと思っていたのですが、仕事をしているうちに繊細な作業でもあると気がきました。なぜなら、何がいくつ必要かということ、どこに何があるのかということなどを常に把握していなければならないからです。肉体も神経も余すところなく使い尽くし、本当に大変だったというのが正直な感想ですが、その分やりがいを感じながら、活動することができました。

レポート ②

熊本地震災害ボランティア現地活動【8月活動報告】



8月21日（日）～24日（水）、熊本市・御船町の災害ボランティアセンターにおいて、本学学生・教職員10名（学生8名、職員2名）が今年度2回目の支援活動を行いました。

現地の被災状況や活動内容について事前に研修を行い、活動期間中における目標設定や、活動後の情報発信のプランなどをしっかりと立ててから、現地に向かいました。

現地での活動はボランティアセンターの事務作業手伝い、仮設住宅へ引越しをされる方の手伝い、個人宅の片付けなど多岐に渡りました。

活動期間中、熊本県内は連日猛暑続きで汗が吹き出る程の気温でしたが、参加した学生は、限られた期間の中で、現地の方々から熱心にお話を伺い、密度の濃い活動を行うことができました。

【学生レポート】

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科3年次生 谷本 秀太

私は今回熊本を訪れるまで、自分のようなボランティアの需要がどの程度あるのか自信を持っていませんでした。ガレキ撤去など目に見えやすい作業をイメージしていましたが、それだけではありませんでした。もちろん震災当初は力作業が多かったのですが、今回は震災から4ヶ月経っていたこともあり「力のお手伝い」から「心のお手伝い」への過渡期といった印象を受けました。引越しを済ませた方々が孤独を感じ精神的に落ち込むのを防ぐために、仮設住宅の方同士のコミュニティを作りイベントを催すことによって、以前の住宅に戻っていく過程を楽しんだり、孤独死や引きこもりを防いだりすることが、これからの復興支援ボランティアの価値の比重としては高くなるということです。目に見える復興だけでなく、目に見えない面での復興の方が時間がかかるのでしょうか。継続して支援に取り組む必要性を感じました。

熊本地震災害義援金募金

4月22日(金)～5月31日(火)、大学キャンパス内で熊本地震災害にかかる義援金募金活動を行いました。期間中、平日の昼休みに、今出川・京田辺両校地キャンパスでボランティアによる呼びかけ活動を行い、のべ565人の学生が参加しました。寄せられた募金額506,958円は全額を日本赤十字社へ寄付しました。地震発生直後から「何か支援をしたい」という学生からの要望が多数あったことをきっかけに、学生たち自身の想いによって実現した活動でした。募金にご協力いただいた皆様、温かいご支援に感謝します。



【学生レポート】

心理学部心理学科3年次生 山本 綾

今回の募金活動は、私にとって初めての募金活動で、とても新鮮で貴重な体験でした。初めは大きな声を出すことに恥ずかしさを感じていましたが、慣れてくるとその気持ちはなくなり、それどころか被災されている人に役立っているかなと思うと、とても良い気持ちになりました。募金してくれる人にもそれぞれのエピソードがあって「自分の地元が九州」という人や「あややってるん！びっくりしたわ」と言って知り合いが募金してくれることもありました。今回募金活動をしなかつと声をかけてもらって本当に良かったです。



未来に繋げよう！！ V-NET 合同防災企画 ～熊本地震から3か月経った今～



7月5日(火)、今出川キャンパス良心館409教室にて、「未来に繋げよう！！ V-NET 合同防災企画 ～熊本地震から3か月経った今～」を開催しました。

「同志社大学に所属する団体やサークルの熊本地震に関わる活動報告を聞きたい！」という学生からの要望を受け、活動報告会とこれからの防災についてのワークショップが行われました。

報告された活動はさまざまで、参加者にとって自分たちが今後出来る災害支援や防災活動について考える良いきっかけになりました。



【学生レポート】

商学部商学科2年次生 (ASUVID今出川所属) 坂本 奈月

今回、私たちは熊本の悲惨な震災を忘れないために、そして今後、この災害大国日本で生きるために、震災に対して真剣に向き合いました。ボランティアネットワークという、自分たち以外のさまざまなボランティア活動をしている団体と繋がることができることはとても良いことだと思いました。普段、異なった分野で活動している他のボランティア団体が、熊本に対してどんな取り組みを行ってきたのか、同じボラン

ティア団体として、そして学生として、さまざまな報告を聞いたことはとても刺激的でした。また、災害の復旧や復興には多くの手段があることを知識として得ることができるとともに、他のサークルと震災について一緒に考えることで、自身の団体に捉われない意見や思いを知ることができて、とても勉強になりました。

同じ学生が震災に対して多様な支援を行っていることはとても刺激的で、今後も震災を他人事ではなく、自分のこととして捉え、自ら多くのことを学んでいく姿勢が大切なのだと感じました。そして今後はより多くの学生に参加してもらい、震災に向き合ってもらいたいです。

同志社 EVE 熊本復興支援物産展

11月26日(土)～28日(月)の同志社EVEにおいて、パネル展示と物販を行いました。熊本地震災害に関する被害の現状を伝え、一人でも多くの方に熊本への興味・関心を持ってもらうことを目的としました。

3日間で延べ47名の学生がボランティアとして参加してくれ、活動に関わった学生からは、「今後も熊本への継続的な支援を行っていきたい」「多くの人に現状を知ってもらいたい」などの感想や、「たくさんの方が足を運んでくれたので、これからも熊本について考えるきっかけを作っていけたらいいなと思います」と今後の継続的な活動についての要望が寄せられました。

当日に行った物販や募金活動により約4万円を熊本県に寄付しました。また、ブースに来場された方々や、ボランティアとして参加した学生に、熊本のことやボランティア支援室の活動について知ってもらうことができ、非常に良い機会になりました。



【学生レポート】

政策学部政策学科2年次生 上林 優真

今回、同志社EVEで熊本復興支援パネル展示・物販のブース運営ボランティアをしましたが、その動機はゼミの友達に誘われたことと、何より熊本に親戚がいたことが大きいです。熊本震災は被害が甚大なのにも関わらず、報道があまりされておらず、現状が何もわからない状態でした。そこで何かしたいと思ったのが参加したきっかけです。今回は主にブースへの案内を行いました、「熊本復興」という興味を示してくれる人がいるのが嬉しかったです。今後も熊本復興には何らかの形で関わっていきたいと思っています。

災害ボランティアセンター基礎講座



9月28日(水)、京都市社会福祉協議会の協力のもと、災害ボランティアセンター基礎講座を開催しました。

今回の講座では、災害ボランティアセンターの役割について学ぶとともに、災害ボランティアセンターを開設する訓練を行いました。参加した学生からは、「難しい言葉や、初めて聞く言葉が多かったので、まだまだ学ぶことが多いと思った。もっと日頃から関心を持ち続けることが大切だと感じた」といった声が聞かれました。ボランティア支援室では、今後も平時における災害ボランティアに関する研修や訓練を実施するとともに、京都市や京都市以外において大規模災害が発生した際に災害ボランティアセンターの設置、運営ボランティア等への参加呼びかけを行います。

防災企画

2月10日(金)、V-NET京田辺主催「防災企画」を実施しました。

この企画は、京田辺校地の同志社ボランティアネットワーク(通称V-NET)に所属するASUVID京田辺とGlobal Baton for Ishinomakiが、ボランティア支援室と共同で開催したものです。会場である京都市市民防災センターで、災害体験やワークショップを通じて、災害発生時を想定した日頃の準備から、実際の災害発生時の対処方法までを考える企画となりました。この企画には、7名の本学学生が両校地から参加しました。

運営をした学生からは、「今回の企画をきっかけとして、普段希薄になっている地域の付き合いなどを見直し、積極的に関わりを持つようにしてほしい」とのメッセージがあり、閉会しました。

アンケートでは、「話しやすい雰囲気の中で、防災について考えられ、学びになった」など、参加してよかったとのコメントがたくさん寄せられました。



ほほえみ広場 2016

10月15日(土)、京都駅近くの梅小路公園にて「ほほえみ広場 2016」が開催され、当日の運営にボランティアとして学生が参加しました。

このイベントは、障がいを持っている人も持っていない人も一緒に楽しめるイベントとして開催されています。当日は快晴で過ごしやすい天気の中、参加した学生は、受付や誘導イベントブースの運営補助などさまざまなサポートを行いました。京都府内にある他大学の学生もボランティアに関わっており学生同士の交流も深まりました。



【学生レポート】

政策学部政策学科1年次生 池田 みのり

私は今回、ほほえみ広場のボランティア活動に参加しました。私は、着ぐるみを着用しての広報活動、警備の仕事などを手伝いました。特に印象に残っているのは着ぐるみでの広報活動です。着ぐるみを着て会場内を歩き、来てくださったお客さんと記念撮影をしたり、小さなお子さんに声かけをしたりしました。会場内を巡回している際、視覚障がいや聴覚障がい者の方々に写真撮影をお願いされ、どうすればうまくコミュニケーションを取ることができるのか考えさせられました。とても貴重な経験をさせていただいたと思います。



上京区民ふれあいまつり



10月30日(日)、上京区にある京都市立北総合支援学校にて上京区民ふれあいまつりが開催され、ボランティア支援室は当日運営ボランティアとブース展示で参加しました。このお祭りは、地域の方々と交流することが出来るとても貴重な場であり、今年は10名の学生ボランティアが参加し、受付や荷物搬入駐車場の整備、駐輪場への誘導などの手伝いをしました。

ボランティア支援室の活動を紹介するブースでは、ボランティア支援室や熊本地震災害への支援の様子などを紹介するポスターを展示しました。ブースに立ち寄り、一つ一つの取り組みの様子を熱心に見ている地域の方もいらっしゃいました。

また、同志社大学マスコットキャラクターの「Ben-K」も、お祭りの盛り上げ役として登場しました。



【学生レポート】

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科(ヨーロッパコース)3年次生 古川 実花

休日は何をするでもなく家で過ごすより、必要なところで誰かのために活動したほうが、自分のためにも周りのためにもなるのではと思い、上京区民ふれあいまつりに参加しました。活動内容としては、受付や出店した各店舗の収益計算をしました。「ボランティアに来てくれてありがとう」と感謝される一方で、私も新しい人とのつながりができ、感謝の気持ちでいっぱいでした。とても充実した1日を過ごすことができました。

同志社つながる@カフェ

年間を通して、ボランティア支援室学生スタッフ ARCO による「同志社つながる@カフェ」を実施しました。同志社つながる@カフェは、地域と学生の出会いの場を創出することをコンセプトに、地域で活動するさまざまな方々と出会い、気軽に情報交換のできる場として、上京区役所、上京区社会福祉協議会の協力のもと、企画しています。

今年度は全6回実施し、地域の方にさまざまなお話を伺いました。地域と学生が相互に繋がり、学生たちがボランティアという形で、地域に入っていき活動に参加するきっかけの場になればと思います。

○今年度の実施日・実施テーマ

4月16日（土）第1回同志社つながる@カフェ

「京都を120%楽しむ！上京てくてく区探索ツアー」

5月20日（金）第2回同志社つながる@カフェ「京都の魅力×地元の自慢」

6月9日（木）第3回同志社つながる@カフェ「祇園祭」

7月6日（水）第4回同志社つながる@カフェ「季節のイベント・行事」

10月26日（水）第5回同志社つながる@カフェ

「復興支援～今、京都で出来る支援とは～」

12月14日（水）第6回同志社つながる@カフェ「京都の児童館を知ろう！」



【学生レポート】

経済学部経済学科3年次生（ボランティア支援室学生スタッフARCO@カフェ班リーダー）
板倉 美咲

初代リーダーとして、同志社つながる@カフェの基盤を作ることが私の目標でした。企画運営が未経験だった私は、当初は計画性も皆無で打ち合わせすらままならない状況でした。挫折も経験し、情けなさや不安に押し潰されそうにもなりました。それでも毎月企画を開催し、運営サイクルを築くことができたのは、共に邁進してくれたチームのメンバー、厳しくも優しく接して下さった職員の皆さん、成長を見守ってくれていた地域の方々の支えがあったお陰です。私にとって、同志社つながる@カフェは人間としての成長を与えてくれた場、人生の財産です。



【学生レポート】

政策学部政策学科2年次生 南宮 濠明

今回の企画に参加し、感じたことは3つあります。それは「関心」、「思考」、「協力」の重要性です。私が今回の企画に参加しようと思ったきっかけは、災害や復興の問題について「関心」があったためです。しかし、関心だけでは、地域にものをどのように供給するかなど、現実的な問題解決はできません。そのため、「思考」することが必要となります。地域に必要なことを考え、元の生活に戻るための方法を模索し、工夫することが重要となります。そして、他の地域との「協力」によって地域の経済を活性化することも重要です。人と仕事、そして金銭的支援がない限り、地域の復興はできません。そのためには支援のみならず、その地域で暮らす人々が自力で生活していけるよう経済的な復興を目指すために、他の地域の方々が状況を理解し、それを共有し協力することが必要です。今回の同志社つながる@カフェで出会ったのは、問題に対する「関心」と「思考」という大事な経験でした。このような機会があることで困っている人を助けられるようになり、互いのつながりを作っていくのだらうと思います

四季体感イベント ～オリジナル風鈴づくりで夏を感じよう！！～

7月9日（土）、今出川キャンパス志高館地下ラウンジにて、ボランティア支援室学生スタッフ ARCO による「四季体感イベント～オリジナル風鈴づくりで夏を感じよう！！～」を実施しました。

四季体感イベントは、学生スタッフ ARCO が企画・実施しているイベントです。上京区内の小学生を同志社大学へ招待して、四季を感じられる体験を一緒に行う、地域と大学がつながる場として企画しています。今回は ARCO だけでなく、運営サポートスタッフを学内で募集し、共同でイベントを運営しました。

まずは、レクリエーションを行い、参加者全員が仲良くなるきっかけづくりをしました。次にペットボトルを使った風鈴作りをし、個性あふれる風鈴がたくさん出来ました。

帰り際には「もっと遊びたい！」と名残惜しそうにしてくれる小学生もあり、楽しんでくれたことが感じられる企画となりました。



【学生レポート】

社会学部社会福祉学科2年次生 福田 麻美子

子どもたちと触れ合えるボランティアがしたいと思い、今回の企画に参加させていただきました。活動前は、子どもたちと短時間で打ち解けることができるか不安でしたが、みんなとてもフレンドリーで、じゃんけん列車などを通してすぐに仲良くなることができました。また、風鈴作りでは、作り方がわからない子に対して、先にできた子が教えるなどしてお互いに協力する様子が見られたり、出来上がった作品を嬉しそうに見せてくれたりと、子どもたちだけでなく私自身も楽しく活動することができました。

ボランティア入門講座 ～子どもとの接し方～



7月4日（月）、今出川キャンパス良心館419教室にて、「ボランティア入門講座～子どもとの接し方～」を開催しました。

まずはお互いの緊張をほぐすために、アイスブレイクとして、手遊びや簡単なゲームをしました。子どもとの距離を縮める方法として、手遊びなどのゲームはよく使われています。レクリエーションなどを通じてお互いの心の距離が縮まっていればさほど緊張することなく自己紹介ができたりグループの輪に溶け込めるようになることを、体験する機会となりました。

その後は、子どもとの活動を行うなかで、けが防止や危険回避のための手法についてワークショップ形式で意見交換をしました。体験キットやスライドを用いて、子どもたちに見えている視野はとても狭いことや、活動に夢中になると周りの危険を察知できないことなどを学ぶ機会となりました。

寒梅館夏まつり

8月20日(土)、今出川校地学生支援課主催「寒梅館夏まつり」が開催され、ボランティア支援室では、学生スタッフ ARCO (協力：上京区役所) による企画「かみぎゅうくんと手作り迷路であそぼう！」をボランティア資料室にて行いました。手作りのビー玉転がし迷路や魚釣りゲーム、かみぎゅうくん紹介を通して子どもたちと交流しました。アトリウムスペースに設けられた特設ステージでは、学生スタッフ ARCO の進行で上京区や同志社大学にまつわるクイズ大会を開催。かみぎゅうくんや Ben-K も一緒にステージを盛り上げてくれました。当日は学生スタッフ ARCO のほかクラブ・サークル14団体、約200名の学生がスタッフとして全体のイベントを運営し、400名を超える子ども・保護者に来場いただきました。



【学生レポート】

商学部商学科1年次生 (ボランティア支援室学生スタッフ ARCO 所属) 長岡 孝治

今回私は、寒梅館夏まつりにボランティアとして参加しました。ブースとステージの企画を他のメンバーたちと夏期休暇が始まる前から準備し、当日にはたくさんのおもちゃたちに遊びに来てもらうことができました。元気に遊びまわる子どもたちに対応するのは疲れますが、「来年もまたこのボランティア活動に参加したい」と思いましたし、今回私が感じた「子どもの癒し効果」をもっと多くの学生にも感じてもらいたいです。

一日体験ボランティア 「小学校で Egg と一緒に子どもたちと遊ぼう！」



11月16日(水)、京田辺市立新小学校にて、一日体験ボランティア「小学校で Egg と一緒に子どもたちと遊ぼう！」を開催しました。これは、京田辺校地の同志社ボランティアネットワーク (通称 V-NET) に所属するスポーツボランティア団体 Egg の活動に、一般学生が参加しボランティアを体験するという企画で、文部科学省が行う「放課後子どもプラン」と学童保育に参加している小学生総勢100名ほど集まりドッチビーを行いました。学生たちは、子どもたち全員が積極的に参加できるように、ルールを一工夫したりフォローをしたりしながら、活動を行いました。

参加学生からは、「楽しかっただけでなく、学生が子どもに注意したり指導したり、教育的な面も見られて、充実した時間でした」との声を聞くことができました。

【学生レポート】

心理学部心理学科2年次生 宮崎 駿太

私は普段、子どもと関わる機会がなく、子どもに対する苦手意識もあり、参加に不安がありました。しかし、Eggでの活動は、メンバーが頻りに声をかけてくれたこと、何をしてあげたらよいかわからなくても、子どもたちの方から積極的に話かけてくれたことで、楽しく充実した時間になりました。Eggのメンバーがそれぞれ工夫して子どもたちと関わる姿、反省会で自分の信念をもって意見を交換する姿が印象的でした。また参加する機会があれば、今度はもう一歩、主体的に子どもと関わられたらと思います。

Egg と巨大迷路で遊ぼう！

3月18日(土)、京田辺キャンパス多目的ホールにて「Egg と巨大迷路で遊ぼう！」を実施しました。これは、スポーツボランティア団体 Egg とボランティア支援室が共同で開催した企画です。普段なかなかできない規模の大きい遊びを、小学生が大学生と一緒に体験し、発想の限界を取り払い、遊びを学びにするというコンセプトのもと行いました。

今回は、企画を作っていく過程でも、運営団体以外の学生に関わってもらおうと、5日間準備日を設け、学生ボランティアとして、参加してもらいました。

企画当日は、18名の小学生が参加しました。巨大迷路内のゲームをクリアしていきながら、早く終わった子は「もう1回！」と楽しんでいる様子でした。

参加した小学生の保護者の方からは、「とても楽しんだ様子で帰ってきて、3連休の一番楽しかった思い出として、絵日記に書いていました。」と連絡いただき、ボランティアで参加した学生からは、「想像以上に子どもが楽しんでくれて、嬉しかった」との感想をもらいました。



祇園祭ごみゼロ大作戦！

7月15日（金）～16日（土）にかけて、ボランティア支援室で募集した学生44名が「祇園祭ごみゼロ大作戦！」に参加しました。祇園祭は、国内外から多くの来場者が訪れ、優美な雰囲気一方で、排出されるごみは年々増え続けています。このような状況を経て、実行委員会の結成のもと、2014年から「祇園祭ごみゼロ大作戦！」が始まりました。この取り組みは、散乱ごみの回収と併せて、夜店や屋台で使用する使い捨て食器をリユース食器に切り替えるというものです。

当日ボランティアスタッフとして参加した本学学生は、リユース食器の配布、エコステーションの運営、拾い歩き回収、拠点運営などの活動を行いました。

参加した学生からは、「知らない人からありがとうと言われて嬉しかった」「ボランティアがいたり、ごみ箱があったりすることの影響は大きいと感じた」「いろいろな人と出会い、いろいろな価値観を聞くことができた」という声が聞けました。



【学生レポート】

理工学部化学システム創成工学科1年次生 和泉 七瀬

主な仕事は、ごみステーションでお客さんにごみを分別してもらうことの声かけやお手伝いでした。お客さんに「この活動のおかげでごみがすごい減ったよ。ありがとう」と言われたり、ボランティアしていることを褒められたりしました。積極的に声を出して分別協力を呼びかけるのとそうでないのでは、お客さんの対応が全く異なりました。声をかけたらきちんと分別して捨ててくれ、嬉しかったです。ごみステーションから離れたところではごみが落ちていたので、やっぱりゴミステーションの設置や声かけは大事だと思いました。

和束のお茶を守ろう！茶畑ボランティア



3月15日（水）～16日（木）、[体験ボランティアプログラム第1弾]「和束のお茶を守ろう！茶畑ボランティア」を実施しました。体験ボランティアプログラムとは、ボランティアをしたことがない学生対象に行う企画で、今回は、京都府南部にある和束町にて、お茶農家さんの所有する茶畑での作業を手伝いながら、8名の学生が1泊2日でボランティア体験をしました。事前に和束町について学びながら、個々に目標設定をし、活動に臨みました。

活動初日は、和束町活性化センターがハーブと野菜を栽培・管理しているビニールハウスでの活動と、茶畑のある山の山道整備を行いました。活動した学生からは「山道整備は体力が必要だったが、自然の中での活動はリフレッシュできた」「どんどん道が綺麗になっていくのは気持ちよかった」「最後までみんな一生懸命掃除をして、達成感があった」といった感想がありました。活動後は宿舎に戻り、夕食の後、和束町の方々5名を囲んで交流会を行いました。活動2日目は、茶畑にて苗植え作業を手伝いました。活動した学生からは「自分たちが植えたお茶の木が成長しているかまた見に来たい」という感想があり、活動後の達成感に溢れた表情が非常に印象的でした。

後日、大学で行った振り返り会では、当初立てた自分の目標について達成できたかどうかを共有し、今後私たちが和束町のためにできることを考えました。「和束町の

風景を撮影した写真展を開催する」「EVEで和束のお茶を提供する出店をする」などさまざまなアイデアが生まれました。この中から、具体的な活動へつながることを期待しています。

先輩に聞こう！セミナー

国際ボランティアってどんなの？～有意義な夏休みのために～

5月25日（水）に、今出川キャンパス良心館 407 教室にて「国際ボランティアってどんなの？～有意義な夏休みのために～」を開催し、14名の参加がありました。NICE 日本国際ワークキャンプセンターの職員より、ワークキャンプの参加制度について説明いただいた後、本学学生3名が登壇し、ワークキャンプで行った活動や感想など経験談を発表しました。参加者からは、「写真を交えて、実体験を聞けたので、とても興味深かった」との感想がありました。



JICA ボランティアセミナー～青年海外協力隊で海外へいこう！～

6月1日（水）今出川キャンパス良心館 102 教室、6月2日（木）京田辺キャンパスローム記念館劇場空間にて、「JICA ボランティアセミナー～青年海外協力隊で海外へいこう！～」を開催し、両日で計35名の参加がありました。青年海外協力協会の職員の方から参加制度について説明いただいた後、ゲストスピーカーでお越しいただいた青年海外協力隊として活動された方に、今出川キャンパスでは講義形式、京田辺キャンパスではインタビュー形式で、活動紹介をしていただきました。参加者からは、「資格がなくても英語が完璧でなくても、現地で役立つことがある」や「JICA のサポート体制が手厚いと思った」などの感想があり、実際に参加することへの後押しになるような企画となりました。



【学生レポート】

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科1年次生 大藪 きよか

私はセミナーで話を聞くまで、ボランティアというのは、高い志を持った人がやるもので、自分とは全く関係のないものだと思っていました。しかし、実際に参加された方々の生の声を聞いて、意外と身近なものなのだとすることに気づきました。自分たちができることは少ないが、だからこそ何ができるか？を考えることが大切だとおっしゃっていたことが印象に残っています。

特に国際ボランティアは、さまざまな国からの参加者と接することで、視野が広がり、また母国についても改めて考えるきっかけになるため、とても興味深いと感じています。

経験者に聞こう！国際ボランティアってどんなの？



10月22日（土）、今出川キャンパス良心館 104 教室にて「経験者に聞こう！国際ボランティアってどんなの？」を開催しました。参加者・関係者含め、計40名ほどの会となりました。

はじめに、NICE の活動に参加した本学卒業生から「学生時代のボランティアが教えてくれたこと」というタイトルで、学生時代のボランティア経験が、自身の現在の仕事にどのように結びついているのかという内容で講演がありました。また、NICE の「エコたわしプロジェクト」(ベトナム)の現地リーダーであるアンさんやワークキャンプに参加した学生たちから、活動についての発表がありました。最後に、登壇者と参加者を交えて意見交換会を行い、参加者からは「詳しく聞けて、深い話ことができました」との感想があげられました。



ボランティア支援室開設記念シンポジウム

7月2日（土）、今出川キャンパス良心館地下2教室にて「ボランティア支援室開設記念シンポジウム」を開催しました。

このシンポジウムは、4月に開設したボランティア支援室を全国・地域の方々に知っていただく機会となり、当日は約120名の方に参加いただきました。

ボランティア支援室の上田室長（商学部教授）の開会挨拶ののち、ボランティア支援室紹介を行いました。本学のボランティア支援室の様子や特徴、学生・地域に対して、今後計画している支援について紹介しました。

特定非営利活動法人ユースビジョン代表の赤澤清孝氏から、「大学ボランティアセンター開設における可能性について」と題した基調講演をいただきました。全国の大学ボランティアセンターの現状や地域の方の学生への期待や、地域の現状とボランティア支援室の今後の展望などについてお話しいただいたあと、「同志社大学らしい視点を持ったボランティア支援室になることを期待している」との激励の言葉をいただきました。

その後、学生による事例報告として「ボランティア支援室学生スタッフ ARCO」、今出川・京田辺の各校地に設置した学生団体による「ボランティアネットワーク（通称 V-NET）」およびゴールデンウィーク期間中に行った「熊本地震現地活動ボランティア」について、それぞれの活動報告と今後の展望について5名の学生から発表がありました。

後半は、赤澤氏、京都府山城 NPO パートナーシップセンターの寺村安道氏、事例報告をした学生から2名、ボランティア支援室コーディネーターをパネリスト、ボランティア支援委員会委員の関谷氏（神学部教授）をファシリテーターとしてパネルディスカッションを行いました。

各々の視点からボランティア支援室に期待すること、学生の成長支援や新たに開設した組織としての課題、今後の展望など幅広い議論を展開しました。大学の中にボランティア支援室を設置し、学生がボランティア活動を行う意義を再認識するような時間となりました。

今回のシンポジウムでは学生スタッフや V-NET 所属の学生が当日の司会進行や受付、誘導等の運営サポートを行いました。

参加者からは「実際の学生の取り組みや現状が聞けて、大変参考になりました」とのご意見を多数いただき、これから本学学生・教職員はもとより、他大学や地域の方々と連携を深めるきっかけとなるような機会となりました。

なお、当日の様子は、ボランティア支援室ホームページに動画をアップロードしていますので、ぜひご覧ください。
(<http://volunteer.doshisha.ac.jp/report/444>)



V-NET ボランティア説明会

4月25日(月)、「V-NET ボランティア説明会」を今出川キャンパス良心館ラーニング・コモンズ2階プレゼンテーションコートで開催しました。この企画は、V-NET(今出川)に加盟している学生団体の呼びかけから実現したもので、STUDY FOR TWO、See-Saw、ASUVID 今出川、同志社 FAST、国際居住研究会、学生団体 CHAD(計15名)が参加し、ボランティア支援室学生スタッフ ARCO が全体の運営を担当しました。それぞれの団体が、活動紹介のプレゼンテーションを行ってから、団体ごとにブースを設け交流会を行いました。交流会は、参加者がプレゼンテーションを聞いたうえで興味を持った団体の話を直接聞きにいくという形式でした。各ブースでは詳しい活動紹介をしたり、参加者から団体へ個別相談をしたりと、団体・参加者ともに非常に充実した時間となったようです。当日は、新入生を中心に25名の参加がありました。企画終了後、協力した学生団体からは、「企画を通して V-NET 同士の交流ができた」「それぞれの団体の活動を知るきっかけになった」「企画がきっかけで実際に新入生が入部してくれた」「来年もぜひ同様の企画をしたい」などの感想がボランティア支援室へ寄せられました。



ボランティアウィーク

—今出川—

7月4日(月)～9日(土)、「ボランティアウィーク」と称して、さまざまな分野のボランティアに関する企画・イベント・研修を実施しました。

7月4日(月)	ボランティア支援室主催「ボランティア入門講座～子どもとの接し方～」(詳細はP10)
7月5日(火)	V-NET主催「未来に繋げよう!!V-NET合同防災企画 ～熊本地震から3か月経った今～」(詳細はP6)
7月6日(水)	ボランティア支援室学生スタッフARCO主催第4回同志社つながる@カフェ「季節のイベント・行事」(詳細はP9)
7月7日(木)	ボランティア支援室主催「ボランティア入門講座～はじめてのボランティア・ボランティア支援室見学ツアー～」
7月8日(金)	ボランティア支援室主催「ボランティア入門講座～災害ボランティア編・ボランティア支援室見学ツアー～」(詳細はP16)
7月9日(土)	ボランティア支援室学生スタッフARCO主催「四季体感イベント～オリジナル風鈴づくりで夏を感じよう!!～」(詳細はP10)

詳細は各活動報告をご覧ください。



—京田辺—

6月21日(火)～6月23日(木)、京田辺キャンパス多目的ホールにて「同志社ボランティアウィーク～広がれ!ボランティアの輪～」を開催しました。この企画は、ボランティア支援室主催のもと、京田辺キャンパスにおけるボランティアネットワーク(通称 V-NET)に所属する6団体が一堂に会し、活動紹介や展示を行うというものでした。

開催期間中は、京田辺キャンパスの多目的ホールとデイヴィス記念館にて、各団体の活動紹介の展示を行う他、昼休みには、全体説明会とブース設置による個別説明会を行いました。「ボランティアには興味あるけど、どんなものがあるか分からない」という学生や「昼休みに何かボランティアをしたい」という学生の参加がありました。

今回参加した V-NET の学生からは、今後も他の団体とのコラボレーション企画や V-NET 全体での企画を行ってほしいとの声が寄せられました。これからも、ボランティア団体同士の横のつながりを強化しつつ、ボランティアをしたい学生が一步を踏み出せるような企画を行っていきます。



ボランティア入門講座～災害ボランティア編・ボランティア支援室見学ツアー～

7月8日（金）、今出川キャンパスボランティア資料室にて、ボランティア支援室主催企画「ボランティア入門講座～災害ボランティア編・ボランティア支援室見学ツアー～」を開催しました。

学生8名が参加し、災害ボランティア活動を行う前に必要となる「自分の命を守る（自助）」や、実際に被災した地域で活動する際の注意点などについて学びました。

はじめに、「災害にはどんな種類があるのか?」と「災害が発生するメカニズム」について説明を受け、具体的にどのような支援が必要になるのかを紹介しました。「炊き出し」「避難所運営サポート」「清掃活動」「生活支援」など、支援の種類も期間も多岐にわたることを学びました。

これを踏まえて、活動する際の注意点や配慮しなくてはならないことについて考えました。災害ボランティアは「自己完結」であることや、自分の体調管理や怪我防止など、「自己責任」が重要になること、さらに被災地や被災された方にはその地域や各人の文化や生活があり、それらを理解し寄り添う気持ちをもつ「被災地・被災者理解」の考えがあること、そして、さまざまな思いや考えを持っている方々が、ひとつの目標に向かって自分のできる範囲内で支援活動を行うので、そこには「多様性」が生まれること、その多様性をしっかりと受け止め、良好な関係を保ちながら支援を行っていく必要があることを学びました。



第10回大学ボランティアセンター全国フォーラム2016

9月8日（木）～9日（金）、「第10回大学ボランティアセンター全国フォーラム2016」が本学を会場校として、特定非営利活動法人ユースビジョンと本学ボランティア支援室共催で行われました。このフォーラムは、全国のボランティアセンター関係者が集まり、毎年テーマを設けながら、情報提供や意見交換をするもので、今年は全国から35名の参加がありました。

1日目は、午前中に「大学ボランティアセンター基礎セミナー」（希望者のみ）を行い、午後からは、メインプログラムの「あらためて、大学における『ボランティアセンター』の価値、役割を考える」と題したパネルディスカッションを行いました。赤澤清孝氏（ユースビジョン代表）から大学を取り巻く社会の動きについて、パネリストの筒井のり子氏（龍谷大学ボランティア・NPO活動センター副センター長）から、ボランティアセンターとボランティアコーディネーターの役割について、パネリストの高見大介氏（日本文理大学人間力育成センター副センター長）から、人間力育成センターの成り立ちから、社会的障壁や大学への働きかけについて話がありました。社会や組織の視点を踏まえ、ボランティアコーディネーションを再定義する視点を投げかけられました。

2日目には、参加者は3つの分科会「ボランティアビギナーへのきっかけづくり」「地域と学生の協働」「学生スタッフの育成、支援」に分かれ意見交換を行いました。

その後、「自由研究発表」では、聖学院大学ボランティア活動センターから卒業生との取り組みについて、関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会事務局から協議会で作成した冊子「学生と地域のホンネ」について、話題提供がありました。

参加者からは、「悩みを共有し、元気をもらえた」「自分の実践が間違っていないと確かめることができた」「新たな気づきを持ち帰る貴重な機会となった」という感想をいただきました。

スキルアップ講座

3月29日（水）、今出川キャンパス至誠館1番教室にて、「スキルアップ講座 組織運営力UPのためのお悩み解消セミナー」を実施しました。

「スキルアップ講座」とは、ボランティア活動に取り組んでいる学生や学内ボランティア団体等を対象に、活動に活かせる発展的な知識やスキルを学ぶ場を提供するボランティア支援室主催の講座です。

当日は、体育会やボランティア支援室のスタッフなど、さまざまな分野で活動する学生が15名参加しました。参加した学生からは、「組織の抱える問題を、広い視野から見つめることができました」といった意見が多く寄せられました。



代表挨拶

社会学部社会福祉学科2年次生 橋田 実樹

ボランティア支援室学生スタッフ ARCO は「地域と共に」をスローガンに、学内にボランティアを普及させ、学生のボランティア活動の活性化を目的に活動しているボランティア支援室の学生スタッフです。普段は、同志社大学の学生へのボランティア情報の発信・紹介や、ボランティアイベントの企画・運営を行っています。

実際に私たち自身もボランティアに参加し、直接地域の方と関わることで、自身の成長にも繋げています。

これから力を入れて取り組みたいことは、同志社大学の学生が今以上にボランティアに関われるような環境づくり、また、地域に貢献できるような企画等をたくさん増やして取り組んでいきたいと考えています！



次年度は発足して2年目になるため、1年目よりも成長した ARCO を目指して、これからも活動していきたいと思います。

活動内容

- ボランティア活動に関する相談・紹介
- ボランティアイベントの企画・運営
- 地域と学生の交流の場「同志社つながる @ カフェ」の企画・運営
- 地域との交流（地域行事や上京区まちづくり円卓会議への参加など）



合宿

政策学部政策学科2年次生 岡本 祐樹

今年度は9月に夏合宿、2月に春研修を行いました。

夏合宿は、9月1日（木）～2日（金）の日程で、滋賀県高島市のグリーンパーク 想い出の森にて行いました。夏合宿は、秋学期以降活動の中心となる1・2年次生の結束力の向上や意識の共有を図る機会となりました。参加者からは、「自分たちが中心となっていくという自覚が芽生えた」「2日間でメンバーとの仲がより強くなった」というような感想がありました。また、ARCO では夏合宿において代表と副代表が交代をすることになっています。

春研修は、2月27日（月）にボランティア資料室にて行いました。春研修は、次年度を迎えるに先立って、「ARCO という組織の目的とは何なのか」「目的を達成するために次年度どんなことができるか」について考えるような内容となっており、参加者からは、「普段は目的についての意識が足りていなかったが、今日再確認できてよかった」という感想がありました。



勉強会

社会学部社会学科1年次生 河合 秀之

ARCO では、ボランティア支援室の学生スタッフとして必要なスキルを学ぶため、コーディネート班が主となって、ミーティング時に勉強会を行っています。

具体的には、実際に学生が相談に来た場面を想定してコーディネーションを行う模擬ボランティアセンターや、人前で話す力をつけるためのプレゼンテーション大会、ボランティア保険についてや、ボランティア支援室に電話がかかってきたときや来客への対応の仕方、メールの送り方など自分たちで取り上げるテーマを決めています。

これらの内容は、メンバーが普段の活動中に、「知らなくて困った！」ことや、「こういう知識があればもっと上手くコーディネートできるのではないか…」といった意見を参考にしています。勉強会の後は、質問や振り返りの時間を設けて、その後の活動に活かしていけるよう工夫にしています。勉強会を行うことで、新たな知識やスキルを手に入れたり、誤解していたことを修正できたりするので、今後も継続して行っていきたいと思っています。

大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー 2016

文学部英文学科1年次生 各務 実来

私は、昨年9月に大阪で開催された「大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー」に参加させていただきました。このセミナーは主に大学ボランティアセンターのパワーアップ、学生スタッフのスキルアップを目的として毎年開催されています。1泊2日、全体を通して「ボランティアについて」「ボランティアセンターがある意味」「学生スタッフの役割」について他大学の学生スタッフと共に議論したり、「コーディネーション」「ミーティング」のテーマ別に分かれて個人の技術を伸ばすセミナーを受講したりしました。私自身は「コーディネーション」のセミナーに参加し、そもそもコーディネーションとは何をすることであるのか？私たちは何を目指していくべきであるのか？といういくつかの疑問を掲げ、各大学でのコーディネーションについての情報交換や困った事例を考えるワーク、模擬ボラなどの活動を通してコーディネーション力を高めるといったワークを行いました。私はこのセミナーに参加しボランティア支援室の学生スタッフとしての自覚が改めて芽生えたように思います。この経験が無駄にせず、色々な面で生かしていきたいと思います。



＝ 2016 年度活動実績 ＝

4月3日(日)	堀川さくらまつりにてラテアート体験ブース設置
4月16日(土)	第1回同志社つながる@カフェ「京都を120%楽しむ! 上京てくてく区探索ツアー」実施
5月20日(金)	第2回同志社つながる@カフェ「京都の魅力×地元の自慢」実施
6月9日(木)	第3回同志社つながる@カフェ「祇園祭」実施
7月5日(火)	「未来に繋げよう!! V-NET合同防災企画～熊本地震から3か月経った今～」にて現地支援活動報告
7月6日(木)	第4回同志社つながる@カフェ「季節のイベント・行事」実施
7月9日(土)	「四季体感イベント～オリジナル風鈴づくりで夏を感じよう!!～」実施
8月20日(土)	寒梅館夏まつりにて「かみぎゅうくんと手作り迷路であそぼう!」ブース設置
9月1(木)～2日(金)	ボランティア支援室学生スタッフARCO夏合宿実施
9月5(月)～6日(火)	大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー2016に参加
9月8(木)～9日(金)	第10回大学ボランティアセンター全国フォーラム2016にて会場校活動紹介
10月5日(水)	パネルディスカッション～熊本地震派遣者の体験報告会(上京区役所主催)にて登壇
10月16日(日)	「大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」にて熊本での現地支援活動報告
10月26日(水)	第5回同志社つながる@カフェ「復興支援」～今、京都で出来る支援とは～実施
10月30日(日)	上京区民ふれあいまつりにてボランティア支援室活動紹介ブースを設置
11月19日(土)	上京区まちづくり円卓会議拡大会議「上京! MOW(もう)」にて活動紹介
11月26(土)～28日(月)	同志社EVEにて熊本復興支援ブース(物販・パネル展示)を設置
12月14日(水)	第6回同志社つながる@カフェ「京都の児童館を知ろう!」実施
2月13(月)～14日(火)	大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー2017に参加
2月27日(月)	ボランティア支援室学生スタッフARCO春研修実施

国際居住研究会

活動内容

世界で住宅支援を行う国際 NGO の Habitat For Humanity、フィリピンで子供と女性の支援を行う SALT パヤタス、バングラデシュのフェアヌ村の小さな孤児院の支援を行うボンドウ孤児院プロジェクトの3つの学生支部から成り立っています。全ての活動は「私たちは世界の誰しにも可能性の開かれたフェアな社会の実現を目指します」という理念にもとづいており、東南アジア諸国の貧困問題などに取り組んでいます。

【メッセージ】

商学部商学科 2 年次生 木下 雄斗

当団体の大半のメンバーが、大学生になって初めてボランティア活動をする学生によって構成されていますが、多くの方が、当団体の活動に参加し続けます。活動を通して現地のこと、自分のやりたいことを追求できるのが当団体の魅力です。



STUDY FOR TWO (スタディー フォー トゥー)



活動内容

同志社の学生が使い終わった教科書を回収し、半額で再販売した利益をラオスの子どもたちの学習支援のために寄付しています。販売利益は奨学金、学校建設費用、制服代、勉強道具代などの形で寄付されます。春と秋の学期始めに販売活動、そして夏と冬の学期終わりに回収活動を行っています。年に1回、希望者向けに実際に支援している子どもたちに会いに行く、ラオスへのスタディーツアーも開催しています。



【メッセージ】

商学部商学科 2 年次生 中村 厚紀

私たち SFT は同志社のみならず、北は北海道大学、南は熊本大学まで全国に 40 以上の大学に支部があり、全国の大学と繋がりを持つことができます。このような他大学との繋がり、SFT の魅力の 1 つであると思います。

学生団体 CHAD (チャド)

活動内容

私たち学生団体 CHAD は、夏休みや冬休みのような長期休暇に、カンボジアでプロジェクトを行っています。カンボジアの大学生と、今カンボジアで問題になっていることを一緒に考え、週に1回のミーティングでどんなプロジェクトにするのかを話し合います。さらに、そこで決定したプロジェクトを、実際にカンボジアで実行に移します。そこでは、カンボジアで活動している NPO や、現地の大学生と一緒に、全力でプロジェクトを遂行します。プロジェクトが無事終わると、問題点がなかったかなどと、次のプロジェクトに生かせるようにメンバー全員でフィードバックを行います。こうすることにより、単発ではなく、より長期的に効果があるプロジェクトを遂行することができています。

【メッセージ】

経済学部経済学科 2 年次生 小嶋 恒

私たち CHAD はカンボジアで活動する団体です。特徴としてはカンボジアに存在するさまざまな問題を現地の学生と一緒にあって、解決する方法を探していることです。今は小学生が学校に行くきっかけを作るため現地の小学校で運動会を行っています。



ASUVID (アスビッド) 今出川

活動内容

地域のボランティアニーズを探し出し、それに応えるボランティア活動の企画運営を学生の力で行っています。具体的な活動としては、鴨川清掃、ペットボトルキャップを換金しワクチンを世界の子どもたちに寄付するエコキャップ運動、経済的に厳しい家庭の子どもたちを対象とした学習支援などがあります。この他に月に1度の総会をはじめ、社会問題について理解を深めるための勉強会も行っています。

【メッセージ】

社会学部社会福祉学科3年次生 森山 由佳梨

ASUVID 今出川には、約250人が所属しており、同志社最大のボランティアサークルになりました。地域活性化、環境保護、国際協力、子ども、防災事業など多岐にわたるボランティア活動をしています。学生だからこそできること、学生ならではの視点で社会問題に取り組んでいます。



同志社 FAST (ファスト)



活動内容

同志社 FAST は大学内または京都市内で活動する地域防災サークルです。FAST とは「Fire and Safety Team」の略称で、京都府の大学生消防防災サークル支援事業「京都学生 FAST」として創設されました。2016年4月現在で府内8大学に FAST が誕生しています。

私たちは①「学内での防災啓発活動」、②「地域防災への貢献」、③「学生同士の防災ネットワークの構築」、これら3つの部則の下に活動しています。これまでの具体的な活動としては、学内で学生向け救命講習の開催や地域の防災訓練への参加、外部防災イベントでのブース出展などがあります。



【メッセージ】

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科3年次生 田村 将士

より多くの人に防災を身近に考えてもらいたい。そんな思いを胸に我々はこれまで3年間活動して来ました。今年は、消防団へ新たに2名入団し、現在5名が消防団員として活動しています。この繋がりを大切に、今後はより地域に根ざした活動を展開して行きます。

See-Saw (シーソー)

活動内容

私たちと世界をつなぐ架け橋としてフェアトレードをツールに国際情勢を発信するための活動をしています。See-Sawの活動の集大成としてフェアトレードファッションショー "PLUS ONE" を毎年開催しています。また企業とフェアトレード商品のコラボや高校に訪問してフェアトレードを伝える出張授業なども行っています。その他にも BBQ や合宿などとても楽しいイベントがたくさんあります。毎週ミーティングをしており、男女メンバーでわいわい楽しく活動中です！

【メッセージ】

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科2年次生 吉川 美香利

現在14名で活動しています。みんな仲良くアットホームなサークルです。やる時は真面目にやり、遊ぶときは思いっきり遊ぶをモットーにしています。



スポーツボランティア団体 Egg (エッグ)

活動内容

Eggの活動は子どもたちにスポーツの楽しさを伝え、スポーツを通して人との繋がりを感じ、わくわくする経験をともにすることによって、「子どもたちが未来に夢を持つ」ことを目的としています。私たちはスポーツには大きな力があり、子どもたちの忘れられない楽しさを創るものであると考えています。毎週月曜日のミーティングでは、スポーツが苦手な子を笑顔にさせる方法などを話し合っています。またスポーツ以外にも子どもたちが「やってみたいけどできないこと」などを考えて行っています。活動は小学校の授業が早く終わる水曜日が多いです。



【メッセージ】

心理学部心理学科2年次生 木田 昌慶

小学校に活動に行くと子どもたちの素直な反応や全力で楽しむ様子に出会うことができます。時に奇抜な発想をしたり、子どもは大人の想像している枠を超える遥かに大きな存在です。Eggはそんな子どもたちと一緒にわくわくしながら殻を破って、人生を面白くする団体です。



Global Baton for Ishinomaki (グローバル バトン フォー イシノマキ)

活動内容

国際交流を通じて被災地への募金活動を行っており、本学の日本人学生と留学生が交流する場を設けています。具体的には、言語レッスンのペアのマッチングや、月1～2回料理パーティーや京都観光、季節のイベントなどを開催しています。その参加費収入により毎月、東日本大震災の被災地である宮城県石巻市の教育委員会に寄付しています。

【メッセージ】

生命医科学部医情報学科3年次生 谷口 尚

学生にも被災地にもそっと寄り添える、そんな団体でありたいと思っています。気軽にご連絡ください！

そら

活動内容

支援学校生親の会（子どもたちの保護者）と連携しながら、精華町に住む障がいをもつ子どもたちと、調理・工作・外出などの活動を企画、運営しています。「そら」は2003年に特定非営利活動法人として京都府より認証を受け、学生だけでなく、困ったときにアドバイスをくれるスタッフ（職員）とともに活動しています。また、保護者の方の声を聞く機会もあるので、学生だけでは得られない繋がりを持つことができ、学びを深めることもできます。また、障がいをもつ子どもたちは物事の感じ方や捉え方が一人ひとり違うので、新しい発見があったり面白さを知ることできます。



【メッセージ】

文化情報学部文化情報学科3年次生 五島 理佐

「そら」の活動では、いつも子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごしています。子どもたちが色々な方法で伝えてくれるメッセージを汲みとり、通じ合えた時に喜びややりがいを感じます。子どもたちと様々な経験をして、活動を通して自分たちも一緒に成長することができる、そんな団体だと思います。

同志社生涯スポーツ研究会～DUAL Sport (デュアル スポーツ)～

活動内容

DUAL Sport (同志社生涯スポーツ研究会) は、子どもから高齢者まであらゆる世代がスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けて、その一助となる活動を行うため 2008 年に発足しました。様々なスポーツイベントにスタッフとして参加するほか、自分たちでいちからスポーツイベントを企画・運営しています。イベントごとにリーダー・予算・広報・プログラムなど、いくつかの部署にわかれて計画を進行させます。また、毎週水曜日に全員が集まって会議をし、全体としてイベントをすすめていきます。

【メッセージ】 スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 2 年次生 青山 僚汰
スポーツが好きな人はもちろん、運動が苦手でも子供が好き、企画運営に興味があるという人なら、楽しく活動できると思います。

とてもやりがいのあるサークルです。是非一度活動に参加してみてください!!



PAZ MUSICA (パス ムシカ)

活動内容

幼稚園・保育園のおまつり、地域の催し物や子ども会、老人ホームでのレクリエーションなどで活動しています。依頼演奏やスタッフをさせていただき、赤ちゃんからお年寄りの方まで、様々な年代の方々と交流をしています。サクソやピアノなど様々な楽器を用いて演奏を行います。私たちが大切にしているのは参加型の発表です。そのため参加者の方々と一緒に歌ったり、楽器を鳴らしたり、体を使って遊んだりします。楽器経験がない人でも本団体の活動に加わることができます。演奏時間は 15 分から 60 分程度まで、場所や内容によって様々です。

【メッセージ】

社会学部社会福祉学科 2 年次生 清家 初音
PAZ MUSICA は演奏を通して地域の方と交流し、笑顔の輪を広げることを目的として活動しています。様々な場所で演奏させて頂くことで多くの方と出会い、繋がりもどんどん広がっていきます。これからも人と人との繋がりを大切に活動していきたいと思います!

ASUVID (アスビッド) 京田辺

活動内容

私たち ASUVID 京田辺は同志社・同志社女子大学の学生、約 175 名を抱える京田辺キャンパス最大のボランティア団体で、今年で創立 4 年目を迎えました。地域に根ざした活動としては主に竹林整備活動や、経済的に恵まれない子どもたちに勉強を教えるスタディサポートを行なっております。月 1 で開かれるクラブ会では、社会問題について話し合ったり、会議を行ったりしています。会員一人ひとりの意見に耳を傾け、全員で作るサークルを意識して活動しています。

【メッセージ】

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 3 年次生 松本 昂大
ASUVID 京田辺には、約 175 人の会員が在籍しています。それは 175 通りの考えがあるということ。たった一人の意見でも大切に、それを尊重しているサークルです。会員全員が主役になれる、そんなサークルを目指しています。



同志社猫サークル DO-CAT (ドゥーキャット)

活動内容

毎月 2 日、12 日、22 日にミーティングや地域猫活動の下準備、勉強会等を行っています。また、関西の学生動物保護団体 KASP にも参加し、その団体が主催するイベントに参加し、企画を手伝っています。現在は、Do-Cat として主に 2 つの計画を進めており、1 つ目は猫に対する企画の「猫ハウスプロジェクト」、もう一方が人に対する企画の「CM プロジェクト」です。活動場所として、主に同志社大学京田辺新館の会議室 13、14 またはその校地内で活動しています。

【メッセージ】

心理学部心理学科 3 年次生 貝谷 拓朗
同志社猫サークル Do-Cat は、年中猫に関する活動をしてみたい方や、猫のことをよりよく知りたい方、猫と戯れたい方、何より猫が大好きな方々、大募集しております! 興味のある方はぜひ一度気軽に連絡をしてみてくださいね。

 同志社大学 学生支援センター
ボランティア支援室

開室時間 9:00~17:00 (平日)

HP <http://volunteer.doshisha.ac.jp/>



今出川校地

〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103
室町キャンパス寒梅館1F

Tel(075)251-3236 Fax(075)251-3099

Mail ji-volun@mail.doshisha.ac.jp

京田辺校地

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3
京田辺キャンパス多目的ホール1F

Tel(0774)65-6777 Fax(0774)65-7421

Mail jt-volun@mail.doshisha.ac.jp